

TTC ゆった〜り山行実施記録表 2016年4月28日 報告者: MY

山行名	福島花見山・三春滝桜・裏磐梯五色沼(820m)トレッキング [福島県]				
実施日	平成28年4月17日(日)~18日(月) 1泊2日 ハイエース利用				
天候/参加人員	天候:曇一時雨後晴/晴 レベル:★ 参加者:申込10名/実施10名(男2名/女8名)				
パーティスタッフ	CL/計画/写真:、SL:、会計:、救護:、ドライバ: スタッフ名削除				
参加メンバ	A班:(班長)、(非メンバ) B班:(班長)、 参加者氏名削除				
費用 一人:24,950円 カンパ金514円	<b>24,950円(交通費¥12,309+宿泊費・その他¥12,590+カンパ金¥51)</b> 交通費 ハイエースレンタル料金(@16,848x2)¥33,696、スタッドレスタイヤ(@1080x2)¥2,160、ドライバ謝礼(@18,000x2+距離2000+宿泊2,000)¥40,000、燃料代(@90x(860)/5)¥15,480、高速料金(圏央厚木-福島西9,830+猪苗代磐梯高原-郡山西1,240+郡山東-圏央厚木9,230)¥20,300、ドライバ宿泊費¥11,450/交通費計¥123,086/一人当たり@12,309、宿泊代(@11,450x10)¥114,500、夕食ビール代(@800x3)¥2,400、福島花見山環境整備協力金(@500x10)¥5,000、三春町文化伝承館抹茶代(@300x10)¥3,000、通信費¥1,000/宿泊費・その他¥125,900/一人当たり@12,590/総費用¥248,986/一人当たり費用@24,899 集金@24,950x10-費用¥248,986=残金¥514(カンパ金会計に繰入)				
所要時間	4/17:花見山	4/18:五色沼トレッキング			4/18:三春町散策
	行動時間	歩行時間	休憩時間	行動時間	行動時間
ガイトブック	—	2:00			—
計画	2:45	2:00	0:15	2:15(積雪)	—
実行	2:35	1:19	0:19	1:38(無雪)	2:05

実行コースタイム記録

◆4/17(日) 天候:曇のち一時雨/後晴 (福島花見山ウォーク/磐梯吾妻スカイライン/レークラインから裏磐梯ロイヤルホテルへ)

	ハイエース	圏央道	東北道	《昼食》
鷲尾	==厚木ヨカト前	==圏央厚木 IC	==菖蒲 PA	==久喜白岡 JCT
6:00	6:17	6:25	7:22/7:34	7:40
シャトルバス	0:35	0:57(含 shopping)	シャトルバス	(ドライバイン) 磐梯吾妻スカイライン/レークライン
	==花見山臨時バス停	==花見山山頂展望場	==花見山臨時バス停	==親水公園P
10:30/10:35	12:10/12:13	13:10/13:20	13:30/13:40	14:03/14:22 15:05
	(裏磐梯毘沙門沼入口)			
	レークライン金堀集落附近==裏磐梯ロイヤルホテル(泊)			
	15:50/16:05	16:25 到着		

◆4/18(月) 天候:晴のち雨 (五色沼トレッキング/三春滝桜鑑賞/三春町街並みウォーキング)

朝食 6:30~	ハイエース (体操)	0:13	0:08	0:16	0:06	0:03	0:13	0:20 (トレ/土産)
裏磐梯 RH	==五色沼 HC 入口	==青沼	==弁天沼	==竜沼	==みどろ沼	==赤沼	==毘沙門沼西端	==同左レストハウス
7:56	8:05/8:15	8:28/8:30	8:38/8:40	8:56	9:02/9:07	9:10	9:23/9:33	9:53/10:10
	磐越道		0:12 (桜散策)	0:27	0:10 《昼食》		0:03 (石蔵)	
猪苗代磐梯高原 IC	==郡山東 IC	==滝桜大駐車場	==三春滝桜	==滝桜P	==三春町役場P	==そば三條屋	==みはる花かご	
10:31	10:55	11:18	11:30/11:45	12:12	12:25/12:30	12:40/13:28	13:31	
0:14	0:06	0:14	0:05 (抹茶席/休憩)	0:10	磐越道/東北道			
==法蔵寺桜	==高乾院桜	==紫雲寺	==三春町文化伝承館	==役場P	==郡山東 IC	==郡山 JCT	==那須高原 SA	
13:45	13:51	14:05	14:10/14:35	14:45/15:02	15:18	15:26	16:07/16:25 17:24/17:37	
	圏央道							
	==菖蒲 PA							
	==圏央厚木 IC							
	==厚木ヨカト前							
	==鷲尾							
	18:23/18:37	19:44	20:00	~20:20 着				

コースの概要、特記事項、反省事項等

日本三大桜の一つ「三春滝桜」に、故秋山庄太郎氏が日本の桃源郷と絶賛したことで花の名所として有名になった福島花見山、そして、裏磐梯五色沼のショートトレッキングの3つの見どころを1泊2日行程でハイエースで巡るゆった〜り山行を計画したが、応募者が9人と少なく、このままだと費用的につらいものがあることから、過去のTTC主催山行に参加実績があり、今回参加のTTCメンバー3人と、コースや体操サークルと一緒に活動中のOJさんをお誘いし、10人で実施する運びになった。

◆4/17(日): 日中(8:00-17:00)の降水確率80-70%と降雨必至の天気予報の中、予定通り厚木出発。今回東北

方面のアクセスに、TTCとして初めて東北道と久喜白岡JCTで繋がった圏央道を利用。渋滞に遭うこともなく順調に走り、途中2ヶ所の休憩を入れ、約370kmの行程(うち高速道329km)に4時間半を要して、花見山の臨時駐車場に指定されているあぶくま親水公園駐車場到着。何時降りだすかと気にしていた雨は福島市内に入る頃によく降りでしたが、1時間もしないうちに止んでしまった。駐車場に留め置いたハイースの中で早昼食を済ませてから、福島交通のシャトルバスに乗換え、10分で沢山の観光バスが駐車中の花見山臨時バス発着場に到着。

この時期、ここから徒歩約15分の花見山は勿論、花卉畑が広がる周囲の山肌一面がピンク色を中心に、白、赤、黄色に染まっているはずなのに、山肌の色づきが悪いではないか。案内係員の話によれば、例年に比べて季節の進み具合が1週間~10日ほど早く、5日に前には桜の主力品種である一重咲き系のソメイヨシノ、トウカイザクラ、カキザクラ、ヒカザクラ、天の川はすべて咲き終わって散ってしまったという。気を取り直して、花見山最長コースの1時間散策コースを辿り、最高地点の花見山山頂展望場まで登った。青空が広がり、雲間に姿を現した雪を被った吾妻連峰や眼下に広がる福島市街の展望を楽しんだ。花見山散策路のそこそこに咲く、菊桜、紅八重桜や薄緑の八重咲「鬱金桜」、白花が美しい利休梅、深紅、白、ピンクとにぎやかなハナモ、黄色の花を群生させるインギョウ、赤花を咲かせるボケ、白い小花の束を連ねるユキヤナギ、咲き始めたツツジやフェリックス、そして一面に広がる菜の花畑等々と、まだまだ見所花一杯の花見山の約2時間半に及ぶ花見ウォーキングを楽しんだ。

天候も回復したので、例年より1週間早い4/8に全線開通した磐梯吾妻スカイラインの雪の回廊をドライブしながら裏磐梯に向かった。高湯から浄土平付近まで登ると、大穴噴火口から勢よく噴気をあげる一切経山(1949m)や東吾妻山(1975m)等の雄峰が見渡せた。大穴噴火口の火山活動活発化により1年ほど前から噴火警戒レベル2に格上げされ、付近の登山規制や8:00-17:00以外のスカイライン通行止め規制が続いている。標高1600m付近の雪の回廊に差し掛かると車は厚い雲の中に突入し、辺りは土砂降りに。雪の壁の高さは例年の約半分の2~3mと、少々寂しかったが、車窓から眺める雪景色もそれなりに素晴らしい。雲を抜けて土湯峠付近まで下ってくると、安達太良山塊の箕輪山も姿を現す。雪が消えてしまった横向温泉スキー場を抜け、開通したばかりのワケライオンを経由して裏磐梯に向かった。柔らか目のスタートで、長時間ヘアピンカーブを走ってきたため、車酔いしてしまったクルマに配慮し、ワケライオン途中の金堀集落付近の路肩に車を止めて一休み。路肩のあちこちに群生するアキノトウモロコシを楽しみながら。林の中で、白、ピンク、紫色のカタクリの群生を見つけて歓声を上げるクルマ等、それぞれ裏磐梯高原の春を楽しんだ。渓谷美と紅葉の名所「中津川渓谷」や秋元湖・小野川湖・檜原湖が同時に見渡せる三湖台等の名勝を通り、今夜の宿泊場所「裏磐梯ロイヤルホテル」に4:30pm前に到着。ドライブを含めた11人が10畳和室5部屋に落ち着き、温泉につかってリラックスしてから、和懐石コース料理を楽しみ、静かな高原の一夜を過ごした。

◆4/18(日)：翌朝、障子を開くと目の前に壮絶な爆裂火口を真中にして、右に磐梯山、左に櫛ヶ峰の朝日に輝く2つ峰の会津の名山が青空にくっきり。6:30AMオープンのパイン朝食会場は、昨夜のうちに7台の観光バスで到着したという250人のツアー客で混雑していたものの、各自好きなものを1時間かけて存分に食べてから、ハイースに乗車して檜原湖畔の五色沼ハイキングコース入口に向かった。昨年の同時期には、1~2mの積雪があったこのコースには、日陰を含めて見事に雪はなく、雪が解けた林床に一齐に春の芽吹きが始まったところで、三つ葉の中央に褐色の小花を一輪咲かせたエンレイソウの群生が目立った。スノーシューを楽しむはずだった本日の標高差下り約40m/歩行距離約4kmの五色沼ハイキングは、早春の磐梯山麓に点在する沼々を訪ね、南に磐梯山、北に西吾妻の山並みを望みながらの約1時間半の朝の散歩レベルのまま、ゴールの毘沙門沼にあっけなく到着してしまった。

猪苗代磐梯高原ICから磐越道に入り、安達太良山を左に見ながら25分ほど走って、郡山東ICの南東13kmほどに位置する三春滝桜に向かった。滝桜が見頃の時期であれば、平日であっても付近の道路は大渋滞し、滝桜至近の駐車場にたどり着くまでに~2時間を要するのが普通。ところが本日は青空が広がる絶好のお花見日和だというのに、全く渋滞もなく、20分余りで滝桜に到着してしまった。案の定滝桜は見事な葉桜で、本日から無料でどうぞ!だという。4/4に開花、4/10満開、4/15頃までは見事な花姿を保っていたが、16~17日にかけて花散らしの強風が吹き、我々が訪ねた4/18朝には、きれいさっぱり葉桜になってしまったようだ。史上最速で4/4に開花した昨年の滝桜は、10日後の4/14に満開になり、4/20頃まで見事な花姿を維持していたのだったのに・・・今年は散るのが思いのほか早く、間に合わなかった。樹齢1000年余の立派な枝ぶりの滝桜の周りを一周してじっくり鑑賞。すぐ北の丘に登って、まだまだ見頃を保つソメイヨシノの花を愛で、西空に霞む安達太良山を確認してから、ここから4km弱に位置する三春町中心部に向かい、当初予定になかった約2時間の町巡り観光ウォーキングを実施。三春町は田村家、松下家、秋田家と続いた古くからの城下町で、町内に樹齢約600年の福聚寺の枝垂桜を筆頭に、多くの神社仏閣や城址を中心に、町内各所に2000本の枝垂桜咲く「日本さくらの名所100選」の桜の名所。役場の駐車場にハイースを止め、地元の人おすすめの手打ち蕎麦屋で、三春ハ(トウモロコシ、キノコ山菜、天麩羅の3種をそれぞれの器にトッピングしたぶっかけ蕎麦)で腹ごしらえしたのち、風情ある町並みが残るおまつり道路、石畳が続く播州通り、お寺3か所訪ねての枝垂桜鑑賞、そして最後は明治23年建築の由緒ある建物(生糸問屋初代吉田誠次郎邸宅)の三春町文化伝承館に立ち寄り、客間に設えたお茶席で抹茶のご接待をしていただいた。訪ね歩いて目にした町内の垂れ桜の花も、滝桜同様、大半は散ってしまったのは残念であったが、静かで風情ある三春の街並みをゆっくり散策し、また、訪ねる先々で出会った三春町民の皆さんの親切な対応・接待に大いに感激し、よき思い出を頂戴した。

三春町は日本三大桜「三春滝桜」のある町として誰でも知っている福島の小都市。毎年数10万人の花見客が滝桜を目当てに押し寄せるが、滝桜から約4km離れた三春町街まで足を延ばす観光客はごくわずかのようだ。しかし、舞鶴城を擁する三春藩の城下町として発展してきた三春町。幕末の会津戦争の際、東北の諸藩が会津藩に味方する中、三春藩は薩長官軍に味方した数少ない東北の小藩であったため、明治新政府から厚遇を受け、明治時代には産業・商業等大いに栄え、当時の隆盛を誇った建築物や、古くからの由緒ある神社仏閣が、戦災に遭わなかったこともあって、そのままの姿で多く現存する見所多い城下町で、三春駒などの伝統工芸品も有名だ。また、三春町は、Eベストおよび七大陸最高峰すべてに女性として最初に登頂した女性登山家として高名な田部井淳子さんの生まれ故郷。地元のボランティアに聞いてみたところ、町中に残る田部井さんの生家跡には、石倉1棟と田部井淳子(旧姓石橋)さん生誕の地を示す碑が残っているとのことであった。

3:00pm 三春町を後にし、郡山東ICから磐越道、東北道、圏央道と往路とほぼ同じルートを辿って、1時間ごとに休憩をとりながら、約5時間かけて本厚木に8:00pmに無事帰着した。帰路途中、白河を過ぎる辺りから八王子付近まで雨に遭ったが、天気予報で降水確率70~80%だった4/17を含めた2日間ともに、屋外で行動中に雨傘にお世話になるシーンはほぼ皆無で、予想を大きく超える好天に恵まれたのはラッキーだった。

しかし、暖かい今冬に引き続き、3月のホッパが陽気で、一気に春が来て、史上最速で全国各地の桜が咲いてしまった2016年度最初のゆった〜山行の企画。満開の三春滝桜のはずが葉桜鑑賞になり、満を持してsettingしたはずの裏磐梯五色沼トレッキングが、雪なしトレッキングになってしまったことは誠に残念だった。

#### ◆桜花見山行の最適時期設定の難しさについて

日本三大桜の一つ三春滝桜はドヒガシ系紅枝垂れ桜で、一般にソメイヨシノに数日遅れて開花する。地元三春町役場のHPを見ると、過去33年間の滝桜の開花データが掲載されている。地球温暖化の進行で、開花が徐々に早まっているので、最近の5年間に限って、その平均値を算出してみると、開花日:4/12、満開日:4/19、散りはじめ:4/24である。しかし、昨年(2015年)の開花日は、2002年と並んで、記録に残る33年間で最早の4/4、満開4/14、散りはじめ4/19であったこと、並びにドライブに混雑する週末の訪問を避けることの2点に重きを置いて、今回の三春滝桜訪問日を4/18(月)に設定した。しかし、3/20過ぎになると、これまでの開花記録を上回るペースで、全国各地のソメイヨシノが開花しはじめたのを見て、4/19では遅いと直感。実施日を4日ほど早める案を参加予定メンバーに提案したが、全員の都合があわなかったことから日程の前倒し変更を断念。当初の予定通り実施することにした。

今年2016年の三春滝桜の開花実績は、開花日:4/4、満開日:4/10、散りはじめ4/15であった。開花日は昨年と同じこれまで最早の4/4であったが、その後最高気温が20℃を超える日が続いて、6日後に満開になり(昨年は開花10日後に満開)、その5日後の4/15からちらほら散り始めたこと、4/16から4/17にかけて花散らしの強風が吹き、我々が訪問した4/18の朝には、風下だった北東側の枝の一部に花を残すのみで、すっかり葉桜に変わってしまったようだ。花見山公園の関係者も、今年の桜の開花は、例年に比べ1週間~10日早く進み、ソメイヨシノ、トウカイザクラ、カサザクラ等の花見山の桜主要品種は4/12頃までに咲き終わって、散ってしまったとのこと。同様に吾妻山や裏磐梯高原の雪解けも、冬の降雪量が少なかったうえ、春先の温かさで、昨年より1~2週間は早く雪解けが進んでしまったようだ。

地球温暖化が急激に進む昨今、桜の見頃の時期を的確に予想することは勿論、紅葉の最盛期をはじめ、入梅/梅雨明け等の季節の進み具合を、過去のデータからの的確に推測する手法を含め、段々難しくなっていると実感させられた。

#### ◆東北道方面への圏央道利用について

圏央道が東に延びて、久喜白岡JCTで東北道に接続されたので、今回早速、この新ルートを利用して、福島方面に14人乗ハイエース(中型車)でアクセスしてみた。これまでの東名/首都高経由の場合と走行距離ではほぼ同じであるが、首都高に渋滞がない場合の所要時間と比較しても、確実に30分以上短縮できることを確認できた。また、朝夕の渋滞する時間帯に首都高を通過する機会が多いことを考えると、確実に1時間以上の時間短縮になり、また所要時間が読めるというのもありがたい。ドライバーのコメントは、「首都高の運転は合流/分流、そして頻繁な車線変更、合流地点付近で頻繁に発生する渋滞等々と、何度通っても緊張の連続で、心身ともに疲れるのに対し、圏央道利用は、そのようなストレスがない分、楽しく運転出来るので大変ありがたい。」とのことであった。したがって、従来から圏央道経由ルートを利用している中央道、関越道、上信越道に加え、東北道方面へのアクセスにも、圏央道経由ルートは大いに利用価値が高いといえよう。

ただし、通行料金に関しては、以下の事情により、2016.4.1から、実質値上げになったともいえる。すなわち、2016.4.01から料金体系を出発ICと到着ICが同じであれば、経路にかかわらず、原則として同一料金になるよう改訂するとのこと、通常高速道路より割高に設定されている圏央道の通行料金が安くなるのではと期待した。しかし、実際には、首都高速の通行料金が、従来最大930円(中型車を含む普通車)であったものが、中型車1380円(+450円up)、普通車1300円(+370円up)へと大幅値上げになった。圏央道経由料金より割安だった首都圏経由料金を首都高の大幅値上げによってバランスさせる方策を採用したため、もしかしてと期待していたTTCが通常利用している普通車や中型車の通行料金値下げには繋がらなかった。